島根・青木（あおき）遺跡

1　所在地　島根県出雲市東林木町
2　調査期間　二〇〇二年（平14）四月～二〇〇三年三月
3　発掘機関　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
4　調査担当者　今岡一三・伊藤　智
5　遺跡の種類　官衙関連遺跡ほか
6　遺跡の年代　弥生時代～中世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

青木遺跡は、北山から南へ流れていた湯屋谷川により形成された扇状地の縁辺部に位置する。国道四三一号道路改築事業に伴い、二〇〇一年から発掘調査を実施している。弥生時代前期から中世にかけての複合遺跡で、弥生時代の遺構面からは、墓壙内から近畿式銅鐸の飾り耳が人骨とともに出土し、また、四隅突出型墳丘墓も見つかっている。

（今　市）

古代の遺構としては、礎石建物・掘立柱建物や溝状遺構などがあり、礎石建物は一部礎石が抜き取られていたが、二間×四間の総柱建物で、盛土をして礎石を置いていた。時期は八世紀後半から九世紀初め頃と思われる。また、この建物の南東に隣接する状態で木組みの溝状遺構を検出した。溝の中心軸が礎石建物の東西軸とほぼ平行であることから、礎石建物の雨落溝の可能性が高いと思われる。

木簡は古代の包含層及び遺構面から計三一点出土した。ほとんどは遺構面上層の包含層の遺物である。墨痕のみのものも多く、また現在整理中のため、今回は遺存状態が良く、判読できた四点を紹介する。また、木簡以外の特筆すべき遺物としては、墨書土器が二五〇点以上、帯金具二点、円面硯二点などがある。墨書土器には須恵器及び朱塗り土師器の杯・蓋・皿などがあり、「伊」と書かれたものが一番多く、その他「家永」「門」「厨」「美談杜」「□□寺」などがある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　・「□□卅四八卅三□八廿四三八十六一八八七九六十
　　　　六七　二七五卅五
　　・「　　　(291)×32×7　041

(2)　□　六日下卅人　　(69)×20×7　081

(3)　「伊丈部本次丸」　123×22×4　051

(4)　「伊和丈マ魚刀自女」　(119)×20×6　019

(1)は九九の習書をした木簡で、二次的に封緘状に整形している。裏面にも墨痕が認められるが判読は困難であった。

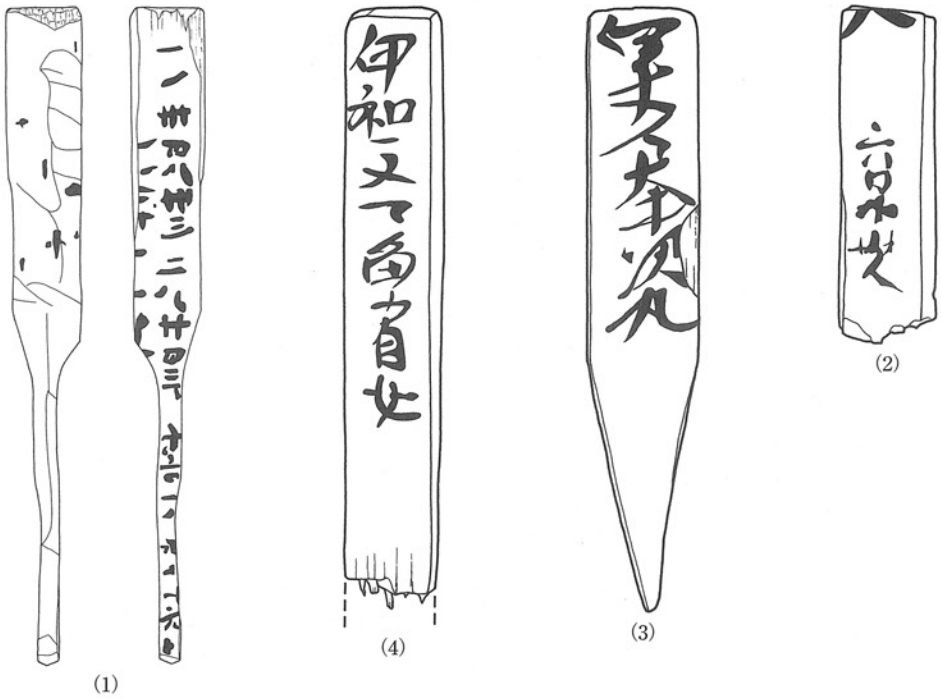
(2)は上下端ともに欠損している。収納したものを三〇人に支出したか、三〇人の人を出したのか不明であるが、伝票のようなものと考えられる。

(3)はほぼ完形で、上端は平らに削り、下端は尖らせている。人名が書かれた付札木簡である。

(4)は下端を欠損しているが、(3)と同様に人名が記載された付札木簡である。

なお、木簡の釈読にあたっては、島根県古代文化研究センターの平石充氏にご教示いただいた。

（今岡一三）



(1)　(2)　(3)　(4)